

第1回都市計画審議会交通政策分科会（令和5年3月29日） 議事要旨

| | |
|-------|--|
| 日 時 | 令和5年3月29日（水） 午後2時～午後4時 |
| 場 所 | すこやかプラザ多目的ホール |
| 出席委員 | 三古委員 西田委員 松村委員 宮野委員 和田委員 田淵委員 奥野委員 野津委員 岡委員 梅山委員 松山委員 平尾委員 藤嶋委員 平ノ内委員 田橋委員 平瀬委員 鴨川委員 田中委員 山名委員 酒井委員 【WEB参加】大塚委員 |
| 傍 聴 者 | 1名 |
| 議 題 | （1） 諮問（仮称）尼崎市総合交通計画の策定について |
| 配布資料 | 資料1 尼崎市都市計画審議会交通政策分科会委員名簿 資料2 諮問書「（仮称）尼崎市総合交通計画の策定について」 参考資料1 （仮称）尼崎市総合交通計画策定に向けたスケジュールの概要 参考資料2 尼崎市都市計画審議会条例 参考資料3 尼崎市都市計画審議会の専門分科会の設置に関する規則 参考資料4 尼崎市都市計画審議会運営規程 参考資料5 尼崎市都市計画審議会の会議の公開等に関する要綱 |

1 議題

1) 諮問（仮称）尼崎市総合交通計画の策定について

- 森山副市長から三古会長へ諮問書の手交

2) 意見交換

- （仮称）尼崎市総合交通計画の策定に向けて、意見交換を行った。
 - Wi-Fi パケットセンサーの技術で人の移動などの解析ができるので活用していきたい。
 - 交通のみで論じることはできず、環境やその他の分野にも視野を広げながら策定していく必要がある。尼崎は人口密度が高く、元気な商店街が残っている。また、便利で活用できる土地や川がある。そういった尼崎の魅力や特性をいかに交通に結び付けるかということで特色のある総合交通計画としたい。
 - 福祉のまちづくりの視点から、どういう建物の設計にしたら誰もが使いやすい施設になるのかということは重要だと思う。また駅が出来ることは住宅地として大きな魅力になると思っている。どういうまちにしていくか、市としてもイニシアチブを持って取り組んで頂けたらと思っている。
 - 尼崎は中心市街地が無く、コンパクトプラスネットワークの考え方がそのまま当てはめにくい都市だと考えている。一方で拠点となる駅がまんべんなくあるため、15分都市の考え方が馴染む非常に先進的な環境共生的な都市になり得る可能性を持っていると感じた。
 - コロナまでは、通勤は需要の弾力性が低い、観光は高いというのが通説だった。しかし新しい生活様式の浸透により、通勤の方が必須ではないもの、観光が必ず移動が伴うものというように考えが逆転してきている。1人1人の生活の変化の背景を丁寧に捉えた計画にしたい。
 - 昨年11月1日に尼崎市と西宮市と阪急電車の3者で武庫川の橋梁上に新駅を作

るという基本合意を結んだ。それを進めていく中で、今回の総合交通計画の中にも織り込んで、まちづくりも含めて考えていくことになっている。伊丹市と尼崎市の通勤圏の話もあり、地理的には近いが、生活圏がちょっとずつ違うところが一体的になってくるというのが総合的に交通計画を策定するよさだと思う。

- シェアサイクルの取組に注目している。実際に利用しようと思ったときに、親子連れにとっては画一的な自転車だと子どもが乗れる自転車がない。遊び心でおもしろ自転車、タンデム自転車が 10 台設置している中の 1 台あれば、そこへ行けば乗れるということで活性化にもつながる気がする。
- 交通インフラが発達していて、その利便性は高く評価できる、この地の利はすばらしいと感じている。しかし例えば伊丹からだと車で 15 分のところが、尼崎に公共交通で通勤すると 30 分以上かかってしまう。周辺の市町村との交通の連携をどんな形で考えていくのか、尼崎市単独ではない視点を持つ必要があるのではないかと感じている。
- 尼崎市の交通事故の特徴は自転車の事故が多いこと。自転車事故の防止、誰もが安全・安心に駅やバス停などの交通のターミナルを活用できるよう、事故防止に配慮した都市計画というのもパッケージにして進めていただきたい。
- 防災の視点も補足したい。武庫川周辺は浸水深 3m を超えるエリアが広がっている。国土交通省の発表では、駅周辺に居住促進を促すこととなるが、そのエリアで浸水リスクがある自治体は 90% 超えている。その場合、垂直避難で土地の高度利用をして、人命を救うためには上に逃げてもらふことを考えないといけない。都市計画の中では、今回の交通政策分科会が都市計画審議会に位置づけられているのは非常に大きな話で、これから都市マスと一体的に立適を策定するときに、ダイレクトに議論になるところだと思う。
- コロナの状況に入って生活環境がどう変わったかというところ、テレワークの進展と自宅付近での活動の増加が主な活動の変化だと思っている。一時乗降客数が大きく減ったが、最近少し戻ってきている。一方で、完全に戻りきるかというところもある。今後、公共交通の維持という観点で考えると、今までどおりで維持できるかというところに関しては議論があるところではないかと思っている。
- 交通の中で網脈のように細かいところまで隅々走るのがタクシーであり、しっかり会議に参加させていただき、地域の公共交通のお役に立てるように頑張っていきたい。
- 公共交通は自分たちが利用して残さなければいけないということで、マイバス意識を高めることも含んでいただいていたと思う。皆さんが利用して公共交通を残していくという意識醸成は大事である。

2 その他

- 事務局より資料に基づき、スケジュール等を説明

以上